

2016年度教育長交渉・課長交渉行われる

「新たな職員評価制度」の問題で、組合に説明の場を設けると明言

8月31日に宮教組、高教組合同による県教育長・課長交渉が行われました。この交渉は、例年11月に行っていた大会要求に基づく勤務条件・教育条件に関わる交渉です。交渉には40名（宮教組22名）が参加しました。

これまでも要求してきた「県独自に35人学級実現を」「特別支援学級の編制基準の引き下げ」の課題については「県財政」を理由に後ろ向きな回答に終始するも、「新たな職員評価制度を拙速に導入するな」という問題では、2000筆（高教組含む）をこえる反対署名を背景に、「組合に説明する場を調整する」と約束しました。多忙解消に関わるその他の要求項目を含め、宮教組は引き続き県教委への折衝を強化していきます。<速報②も後日送信>

署名が大きな力に



↑ 反対署名を教育長に手渡す。

県独自の少人数学級に後ろ向き 不誠実な回答に終始

組合側：中教審「審議のまとめ」（外国活動の教科化、道徳の評価など）を読んでも、現場はますます忙しくなる状況である。国が動かないなら、県が動くべきだ。市町村で動いているところもある。

教育長：学級編制のあり方については、国が責任を持って対応すべきもの。35人以下学級も、国が実現すべきものと認識している。県としては、引き続き対象学年の拡充について要望していく。

多忙解消に向けて、 個別の案件で組合の話聞く

組合側：部活動による長時間過密労働は、深刻だ。教職員の業務内容の精選が叫ばれている。多忙解消のために、県教委が責任を持つべきだ。

課長：県教委主催の会議や調査等の縮減及び縮減等を進めてきている。文科省によるタスクフォース報告（勤務時間の縮減に向けた）をふまえて、さらに改善に努める。その他の課題についても、個別に話合いに応じる。

（再任用制度、特支支援計画、部活動等）

平和集会にGO!

参加希望者は本部までお知らせ下さい。

8月に行われた原水爆禁止世界大会に、宮教組各支部のキャンパ活動を中心としながら、青年部から3名の代表者を広島に派遣しました。国会で改憲勢力が3分の2を占めるという情勢のもと、今こそ平和を大切に平和憲法を守り生かすという運動方針を推進するために、下記集会に代表を派遣（旅費支給）します。参加希望がある方は、FAX（022-274-2130／分会名、氏名、希望明記、書式自由）下さい。（9/9まで）

2016年日本平和大会in三沢（平和委員会主催）

日時：10月22日（土）23日（日）

動員：青年部を中心に2名

内容：三沢基地視察、分科会、シンポジウムなど

※貸し切りバスでの参加です。

2016年日教組平和集会（日教組）

日時：10月1日（土）2日（日） 動員：2名

場所：福岡市・セントラルフクオカ（青年1名）

内容：現地報告「事実をつかむ現実を語り継ぐ」、4つの平和分科会、フィールドワークなど